

野田村二十一人討死

証如上人御消息披露法要

講師 野世 真隆 先生 2024.5.8(水)

講題 「立教開宗800年をお迎えして」



玉川コミュニティーセンターにある二十一人討死の碑ですが、今年も地域の方や圓滿寺役員の方が綺麗に下さっています。お名号を置いて合掌礼拝し、総代・役員の方と共に気持ちよく有り難くおつとめ出来ました。

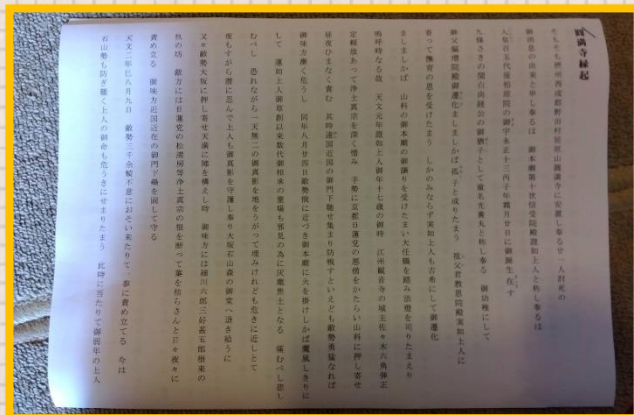


碑の前でのおつとめが終わったらお寺に戻り、証如上人の御消息に間違いがないか、確認を総代さんで行います。コミュニティーで一緒におつとめをした役員の方にも見ていただきました。



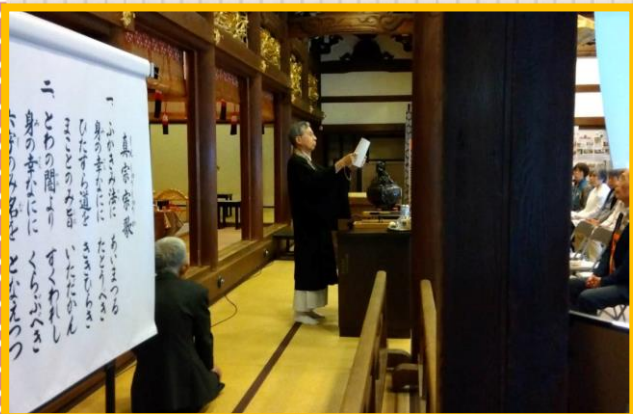


御法中と共に皆さんで「仏説阿弥陀経」和讃付きでおつとめました。



高座にて、まず縁起の古文書を読み上げます。続いて、證如上人の御消息の拝読です。お念仏相続のため命をかけて證如上人を守り抜いて亡くなられた二十一人の方への感謝とこの事実を忘れることなく後世へと語り継いで欲しい旨が記された證如上人直筆のものです。約490年前の出来事と当時のそのままの御消息です。ここまで受け継がれてきたことに、ただただ驚くばかりです。

今年は若院が担いました。御消息は丸暗記だそうです。



縁起、證如上人の御消息披露の後には、本願寺より昭和33年にいただいた「顕彰の辞」を院主が代読。「この法要を大切に、これからもお念仏相続に励んで下さい」といった内容です。

この證如上人と二十一人討死の事柄により、ご本山から毎年1月13日に「御頭参り」の御案内を頂戴しております。全国でも「御頭参り」が出来るのは十数カ寺だけです。是非一緒にお参りしましょう。

時代が変化し、宗教の在り方や儀式や形式が変わる中、変わらないものは、親鸞聖人がお示し下さったみ教えです。約490年前に命を賭してお念仏を守りお伝え下さった先達の方が、今わたしに至り届いている。そして、必ず共に歩める存在というものをいただいていることを味わっていくことが、み教えのお味わいであるとお取り次ぎいただきました。



約490年続いた法要です。これからも皆様と共に大切に、お念仏相続のお手伝い出来るよう励んで参りたいと思います。

法要の最後にはクジ引き。ちょっといつもと違った感じにしてみました。楽しんでいただけたようで良かったです。また沢山のお供え、ほっとけ米のお米等御心遣い頂戴しております。有り難うございました。